

## 慢性維持透析患者における栄養指標と予後、性差による検討

塚田 三佐緒:1 花房 規男:1, 新田 孝作:2, 土谷 健:1

1:東京女子医科大学血液浄化療法科, 2:東京女子医科大学腎臓内科

【背景】我が国の透析患者は高齢化してきており、低栄養が生命予後に影響することが知られている。腎不全患者では、protein-energy wasting (PEW) を高率に認め、予後と深い関連がある。骨格筋量の減少および体脂肪量の減少が PEW ではみられるが、骨格筋量および体脂肪量の減少は、それぞれが透析患者の予後に関与する。その測定には、生体インピーダンス (bio electrical impedance analysis: BIA) 法が頻用されている。近年、体組成とは別に、BIA 法によって測定される位相角と栄養状態との関連が報告されている。一方、我が国の慢性腎疾患患者発生率は性差が認められるが、男性の死亡リスクが高いことが示されている。しかしながら、透析患者の栄養指標と死亡リスクとの関連について、性差による検討は報告が少ないのが現状である。

【目的】透析患者の栄養指標の経年的変化と死亡との関連、およびその関連に与える性別の影響を明らかにする。

【方法】本研究は、後ろ向き観察研究として行い、当院の外来で維持透析中の患者のうち 2013 年 6 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日まで BIA 法を施行した患者を対象とする。要因としては、BIA 法による体組成の指標、位相角、および 2020 年 12 月 31 日までのそれらの変化をとる。アウトカムとしては、全死亡、死因別死亡、入院、原因別入院とした。これらの要因とアウトカムとの間の関連に性別が影響を与えるかどうかを検討する。さらに、観察開始時点における各種臨床指標である患者背景因子 (年齢、透析歴、原疾患、合併症)、血液検査データ、栄養状態の指標 (GNRI、体重、BMI、nPCR) と体組成指標・位相角との関連についても性別ごとに検証を行う。

【本研究の意義】本研究からは、各種臨床指標と臨床的予後との関連への性別の影響が検証される。得られた結果から、個別性をもった透析患者の評価および対応が明らかになることが期待される。